2025年超高齢社会に向けたまちづくり

域包括ケアシステム

税

集

「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」 に向けて「進化」する長崎。このコーナーでは、 中・長期的な長崎市の取り組みを中心に、その 「動き」をお伝えします。

#### 市政の動きをお知らせする 進化

### けられるような体制づくりが求められています。 できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続 うなことから、病気や介護が必要になっても、 8割のかたが病院で亡くなっています。このよ が在宅での介護を希望されていますが、実際は を受けたいかという希望について約6割のかた 病院や介護施設の定員には限りがあり、このま

市内の75歳以上人口の推移

## 住み慣れたまちで暮らそう

割が75歳以上の後期高齢者になる見込みです。 なる2025年(平成37年)には、総人口の2 今後10年間で急激な高齢化が見込まれる中、 長崎市では、団塊の世代の方々が75歳以上と

きなくなる恐れがあります。 までは増え続ける医療や介護のニーズに対応で 15% 7万9千人 10% 0% 2025年 75歳以上人口の割合

※国立社会保障・人口問題研究所推計

予防、見守り・買い物支援などの生活支援、 などの**介護**サービス、健康づくりを含めた**介護** 包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。 して暮らせる**住まい**を一体的に提供する**「地域** そこで、市では、

介護 介護予防 住み慣れた住まい 地域包括支援センタ ケアマネジャ 自治会・ボランテ 生活支援

市の介護保険のニーズ調査では、どこで介護

120,000

100,000 80,000

60,000

40,000

20,000

15%

6万5千人

2015年

75歳以上人口 9

必要な在宅医療や訪問介護

【問い合わせ】地域包括ケアシステム推進室☎829・1421

健 康

税

募 集

# 在宅医療…入院だけではない選択肢

り住み慣れた家庭や地域で過ごしたいという患 者やその家族を支援する在宅医療という方法が かない」と思っていませんか? 実は、できる限 皆さんは、「重い病気にかかったら入院するし

が期待できます。 築により、在宅医療がさらに普及していくこと まざまな専門職が連携して患者や家族をサポー 要に応じて歯科医や薬剤師が訪問するなど、さ 問し、診療や治療などを行います。さらに、必 トします。今後、「地域包括ケアシステム」の構 在宅医療では、医師や看護師などが自宅を訪

## 長崎版地域包括ケアシステム

地域づくりを支援する「長崎版地域包括ケアシ ステム」の構築に取り組んでいきます。 チームを作って、地域のさまざまな課題解決や ビス事業所などの医療・介護・福祉の専門職が 院や介護支援専門員(ケアマネジャー)、介護サー ンターを中核として、医療機関、薬局、歯科医 市では、中学校区を基本に、地域包括支援セ

の皆さんが自分たちで行う健康づくりや生きが 認知症対策、買い物や見守り、外出支援などの いづくりも支援します。 し続けるための仕組みづくりを行います。地域 日常生活支援と併せて、住み慣れた地域で暮ら 療・介護・福祉に関する専門職間の連携や相談 への対応、地域住民への介護予防の取り組み、 これまで別々にサービスが提供されていた医

今後も紹介していきます。 長崎版地域包括ケアシステム」の構築について、 安心して住み続けられるまちづくりのための

## 在宅医療の現場

した。 ている詫摩(たくま)和彦先生に同行しま 深堀・香焼地区を中心に訪問診療を行っ

子さんに尋ねていました。 たあと、体の具合などを昭雄さんや妻の節 宅では、 その中の一人、川原昭雄さん(83歳)のお 取材日に詫摩先生が訪問したのは5件。 血圧や心拍数などのチェックをし

となって昭雄さんとご家族の生活を支えて ら在宅に療養の場を移しました。現在は、 成15年に脳梗塞を発症した後、平成16年か 認するというように、多くの職種がチーム 要に応じて随時ケアマネジャーが状態を確 訪問看護、週6日のデイサービス利用、必 家族による介護に加え、週1回の訪問診療 昭雄さんは、平成13年に前立腺がん、平

子が悪いときに、先生に電話するふりをす ると、(夫も) 安心する。 先生のおらんやっ る」と語ります。節子さんも「夫の体の調 昭雄さんは「先生の顔を見ると安心でき



たら絶対見いえんよ(介護できないよ)」

をつけんばですよ」といいながら、お宅を 後にしました。 詫摩先生は昭雄さんたちに「寒かけん気

### ▼在宅医療について詫摩先生に伺いました 私は、「医者の都合

さんをなくすこと」を 目指して在宅医療に取 で在宅に戻れない患者

り組んでいます。

めには、患者さんや家族の言葉に常に耳を 傾けて、生活を支えるために何が必要か考 えることが大切だと思います。 り立たなければ意味がありません。そのた 活を支える手助けのひとつです。生活が成 医療は、あくまでも患者さんや家族の牛

広げていきたいと考えています。 の活動などを通じて、長崎での在宅医療を これからも、「長崎在宅Dr・ネット(※)」

※長崎在宅Dr・ネット

を行う仕組みを作っています。(もちろん 訪問診療の分担や、万が一の際の緊急対応 らに副主治医がバックアップとして控え、 んでいる地域に合わせて主治医を決め、さ の医師が主なメンバーです。患者さんが住 長崎市内の訪問診療を行なっている診療所 患者さんに、在宅医を斡旋するNPO法人。 退院後の在宅医が決まらない病院入院中の い医師も、多数在宅医療をされています) 「長崎在宅Dr.ネット」に入会されていな